

一 西 だ よ り



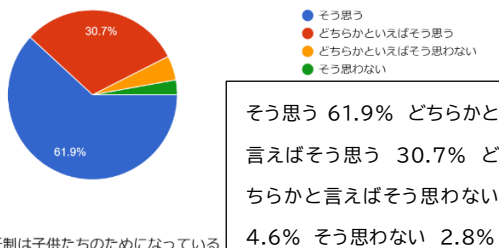
豊川市立一宮西部小学校通信
令和 8 年 9月10日 第12号
発行 校長 村上謙一

【1 学期の学校評価から】

本調査の結果は別に詳細なご報告をいたします。毎回も調査にご協力いただき誠にありがとうございました。今回はその一部を紹介します。★チーム担任制について

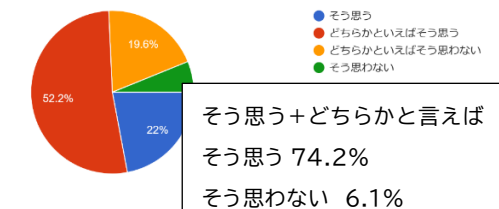
⑬チーム担任制となり、いろいろな先生と生活すると学校生活がしやすい。
388 件の回答

児童



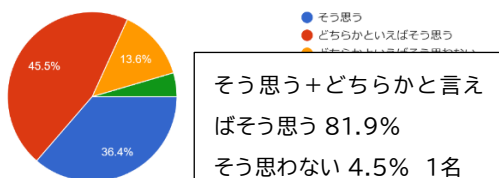
⑬チーム担任制は子供たちのためになっている
245 件の回答

保護者



⑬チーム担任制は子供たちのためになっていると思いますか
22 件の回答

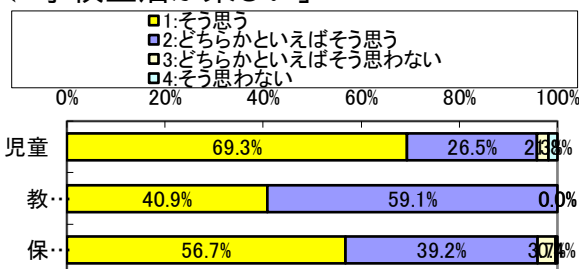
教職員



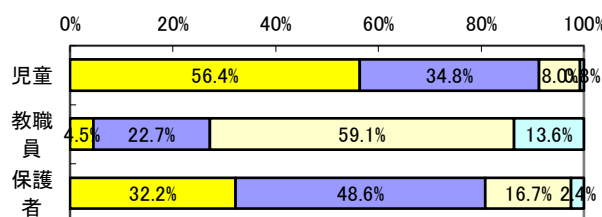
7 年度の調査との比較では、肯定的な回答が児童、保護者、教職員ともに上昇しています。ただし教職員の肯定意見に占める積極的な回答が 14.3⇒36.4%に大きく増加しました。児童も 55⇒61.9%で大きく増加です。肯定意見の割合は児童・保護者・教職員の順に 92.6%、74.2%、81.9%と、調査を重ねるごとに上昇傾向です。一方で児童の 7.4%に困り感が見られます。

その他のご意見には、子供たちの「うれしい」と感じる場面の声が多く寄せられる一方、保護者からは「担任を固定しない」「情報共有」について不安の声があります。チーム担任制は、子供・保護者と担任のミスマッチを防ぎ、チームとして個別最適な支援を可能にするものですが、解決すべき課題もあります(7.4%の「困り感」群)ので、対策を検討して相談しやすい環境づくりに努めます。

★「学校生活が楽しい」



★「あいさつが言える」



学校生活が楽しいと答えた割合は昨年度とほぼ同じです。紙面の都合で掲載をさけますが、「授業が分かりやすいか」「先生は困った時に助けてくれる」も同様の傾向です。

特徴があるのが「あいさつが言える」の設問で、「言える」の回答が、子供 91.2%、保護者 80.8%、教職員は 27.2%で、3 者で認識が大きく異なります。あいさつを強要すると、子供はあいさつすべきシーンを避けるようになります。声の大きさを求めると、地面を見たまま声だけのあいさつになってしまいます。子供はしているつもり。でも、相手には届いていないのでしょうか。コロナ禍での大声の自粛、不審者情報の頻出などの影響もあるようです。

あいさつを「コミュニケーションの始まり」と考えると、その始まりは何(声? 真心? 関心? 目線? 表情? …)を届けるのか。始めるのは自分か、それとも相手か。知らない人とのコミュニケーションの始まりをどうするか。クラスのみんなと対話で考えましょう。

【夏休み、先生たちも勉強しました】

日ごろの授業づくりが認められ、5 年生担当の加藤誠貴先生が、教育文化振興会から表彰されました。

